

**CASBEE-建築(新築)2014年版**  
**(仮称)博多駅前2丁目ホテル計画**

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版  
 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2014(v.3.0)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>3.4</b>
<b>Q1 室内環境</b>			<b>0.39</b>		-			<b>3.6</b>
<b>1 音環境</b>		<b>3.8</b>	0.15	<b>3.3</b>	1.00			<b>3.5</b>
1.1 騒音	目標値 共用部(ロビー):50dB(NC40) 客室:40dB(NC30)	3.0	0.40	3.0	0.40			
1.2 遮音		<b>5.0</b>	0.40	<b>3.9</b>	0.40			
1.2.1 開口部遮音性能	サッシはT-2の性能を有します。	5.0	1.00	5.0	0.30			
1.2.2 界壁遮音性能	A2000仕様を採用します。	-	-	4.0	0.30			
1.2.3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	3.0	0.20			
1.2.4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	3.0	0.20			
1.3 吸音		<b>3.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	0.20			
<b>2 温熱環境</b>		<b>3.3</b>	0.35	<b>3.0</b>	1.00			<b>3.1</b>
2.1 室温制御		<b>3.7</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.50			
2.1.1 室温		3.0	0.38	3.0	0.57			
2.1.2 外皮性能		3.0	0.25	3.0	0.43			
2.1.3 ゾーン別制御性	空調系統を分け、さらに細かな空調のゾーニングをします。	5.0	0.37	-	-			
2.2 湿度制御		<b>3.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	0.20			
2.3 空調方式		<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.30			
<b>3 光・視環境</b>		<b>3.3</b>	0.25	<b>3.3</b>	1.00			<b>3.3</b>
3.1 屋光利用		<b>4.1</b>	0.32	<b>4.2</b>	0.30			
3.1.1 屋光率	宿泊部分:2.86 共用部分:3.0	5.0	0.59	5.0	0.60			
3.1.2 方位別開口		-	-	-	-			
3.1.3 屋光利用設備		3.0	0.41	3.0	0.40			
3.2 グレア対策		<b>3.0</b>	0.29	<b>3.0</b>	0.30			
3.2.1 屋光制御		3.0	1.00	3.0	1.00			
3.3 照度		<b>3.0</b>	0.15	<b>3.0</b>	0.15			
3.4 照明制御		<b>3.0</b>	0.24	<b>3.0</b>	0.25			
<b>4 空気質環境</b>		<b>4.7</b>	0.25	<b>4.5</b>	1.00			<b>4.5</b>
4.1 発生源対策		<b>5.0</b>	0.50	<b>5.0</b>	0.63			
4.1.1 化学汚染物質	天井、壁の仕上材はF☆☆☆☆を採用します。	5.0	1.00	5.0	1.00			
4.1.2 アスベスト対策		-	-	-	-			
4.2 換気		<b>4.0</b>	0.30	<b>3.6</b>	0.38			
4.2.1 換気量		3.0	0.50	3.0	0.33			
4.2.2 自然換気性能		-	-	3.0	0.33			
4.2.3 取り入れ外気への配慮	給気は屋上より取り入れます。	5.0	0.50	5.0	0.33			
4.3 運用管理		<b>5.0</b>	0.20	-	-			
4.3.1 CO <sub>2</sub> の監視		-	-	-	-			
4.3.2 喫煙の制御	喫煙室を設けます。	5.0	1.00	-	-			
<b>Q2 サービス性能</b>		-	<b>0.30</b>	-	-			<b>3.1</b>
<b>1 機能性</b>		<b>3.9</b>	0.40	<b>3.3</b>	1.00			<b>3.5</b>
1.1 機能性・使いやすさ		<b>3.0</b>	0.40	<b>2.5</b>	0.60			
1.1.1 広さ・収納性		3.0	0.03	3.0	0.50			
1.1.2 高度情報通信設備対応		-	-	2.0	0.50			
1.1.3 バリアフリー計画		3.0	0.97	-	-			
1.2 心理性・快適性		<b>5.0</b>	0.30	<b>4.5</b>	0.40			
1.2.1 広さ感・景観	居室の天井高は2.5mとします。	-	-	4.0	0.50			
1.2.2 リフレッシュスペース		-	-	-	-			
1.2.3 内装計画	客室 床:タイルカーペット 壁:クロス 天井:クロス	5.0	1.00	5.0	0.50			
1.3 維持管理		<b>4.0</b>	0.30	-	-			
1.3.1 維持管理に配慮した設計	維持管理機能を充実させた設計をします。	4.0	0.50	-	-			
1.3.2 維持管理用機能の確保	維持管理機能を充実させます。	4.0	0.50	-	-			
1.3.3 衛生管理業務		-	-	-	-			
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>3.2</b>	0.30	-	-			<b>3.2</b>
2.1 耐震・免震		<b>3.0</b>	0.50	-	-			
2.1.1 耐震性		3.0	0.80	-	-			
2.1.2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数		<b>3.0</b>	0.30	-	-			
2.2.1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-			
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20	-	-			
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-			
2.2.4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-			
2.2.5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-			
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-			

<b>2.4 信頼性</b>			<b>4.2</b>	0.20	-	-	
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備	中水を利用します。	4.0	0.20	-	-	
3	電気設備	LED照明を使用します。	5.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法	耐震クラスAとして計画します。	4.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備	通信手段の多様化を図ります。	5.0	0.20	-	-	
<b>3 対応性・更新性</b>			<b>2.8</b>	0.30	<b>2.4</b>	1.00	<b>2.5</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			-	-	<b>1.8</b>	0.50	
1	階高のゆとり		-	-	1.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ		-	-	3.0	0.40	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.03	<b>3.0</b>	0.50	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>2.8</b>	0.97	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		2.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.31</b>	-	-	<b>3.4</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>		周辺のまちなみや風景にバランスよく調和する計画とします。	<b>4.0</b>	0.40	-	-	<b>4.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
<b>3.1 地域性への配慮、快適性の向上</b>			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>3.2 敷地内温熱環境の向上</b>			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.4</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>3.6</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>		LED照明を使用します。	<b>3.8</b>	0.18	-	-	<b>3.8</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>			3.0	0.10	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>		BEI 非住宅 0.92 住宅(専有部) 0.83	<b>3.8</b>	0.51	-	-	<b>3.8</b>
集合住宅以外の評価(3a.3b)		OOPの高い空調設備を使用します。	3.8	1.00	-	-	
集合住宅の評価(3c)			-	-	-	-	
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.5</b>	0.20	-	-	<b>3.5</b>
集合住宅以外の評価			<b>3.5</b>	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	定期的にシステムの確認をします。	4.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.7</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.5</b>	0.20	-	-	<b>3.5</b>
<b>1.1 節水</b>		中水を利用します。	<b>4.0</b>	0.40	-	-	
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>			<b>3.3</b>	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無	中水を利用します。	4.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>4.1</b>	0.60	-	-	<b>4.1</b>
<b>2.1 材料使用量の削減</b>			3.0	0.10	-	-	
<b>2.2 既存建築躯体等の継続使用</b>		既存躯体を山留として利用します。	5.0	0.20	-	-	
<b>2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用</b>		-	3.0	0.20	-	-	
<b>2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</b>		ビニル系床材、壁紙、ルーフィング	5.0	0.20	-	-	
<b>2.5 持続可能な森林から産出された木材</b>			2.0	0.10	-	-	
<b>2.6 部材の再利用可能性向上への取組み</b>		解体が容易で再利用しやすい鉄骨造とします。	5.0	0.20	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>2.9</b>	0.20	-	-	<b>2.9</b>
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>		ビニル床タイル・シート用接着剤を使用します。	4.0	0.30	-	-	
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>			<b>2.5</b>	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		2.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.9</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		屋上緑化、敷地内緑化に努めます。	<b>3.2</b>	0.33	-	-	<b>3.2</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>2.6</b>	0.33	-	-	<b>2.6</b>
<b>2.1 大気汚染防止</b>			<b>3.0</b>	0.25	-	-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>			<b>2.0</b>	0.50	-	-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>			<b>3.7</b>	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	条例に準じた駐車場を配置します。	4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	分別処理を行います。	5.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.33	-	-	<b>3.0</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			-	-	-	-	
1	騒音		-	-	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.67	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.33	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	